

教科(科目)	家庭 (家庭総合)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 (普通科)
使用教科書	東京書籍 家庭総合 自立・共生・創造				
副教材等	実教出版 生活学Navi 新潟県県民生活課・新潟県消費生活センター Caution				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①「深慮にして実践」「誠実にして勉強」「和親にして敬愛」の教育目標の下、物事に主体的に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>②自身の健康を保ちつつ、社会的な自立を目指し、多様性を尊重しながら他者と協働して取り組む力を育成する。</p> <p>③教科横断的な視点を持ち、様々な学習活動をとおして、創造力、行動力、コミュニケーション能力を育成する。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>①生徒一人ひとりの目標や進路希望が実現できる教育課程を編成し、教育活動を展開する。</p> <p>②3年後の進路を見据えた学力の定着と活用に向け、ICT機器を活用するなどして、主体的・対話的で深い学びと探究的な学習を行う。</p> <p>③自己の在り方生き方を探究するため、「総合的な探究の時間」を主軸に、課題発見・解決、自己表現の育成に取り組む。</p> <p>④様々な状況や環境に対応し自己の力を向上させるため、ボランティア活動やインターンシップ、外部検定試験など、生徒が自ら挑戦できる機会となる情報を積極的に提供する。</p> <p>⑤学校行事や部活動などの生徒の主体的な活動の支援に向け、安全・安心な教育環境に努める。</p>

2 学習目標

<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>①生活の基礎基本を学び、知識の習得と共に特に実習や観察をとおして様々な事象を科学的に理解させ、技術を身につけることを目指します。</p> <p>②自分を見つめ、周囲の人々と創造的な関係を結ぶ実践力を育てます。</p> <p>③自立に向けたシミュレートをすることにより、今後の生活面に現実感を持たせます。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次とおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ ワークシート、レポート ・ 授業中の発言や取り組み などから評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 実習状況とその成果 ・ ワークシート、レポートなどの内 容の確認などから評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言や取り組み ・ ワークシート、レポート、提出 物 などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから評価する。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第4章 超高齢社会を共に生きる	2	・超高齢 大衆長寿 社会の到 来	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者にとって、どのような支 援が必要か考える。	2	・ワークシート (記述の確認) ・授業の取り組み (行動の確認) ・振り返りシート (記述の分析)
		2	・高齢期 の心身の 特徴	・加齢に伴う心身の変化や高齢者 の生き方について理解を深め る。 ・高齢期を支える社会の仕組みや 課題について考える。	2	
5		7	・高齢社 会の自立 を考える	・高齢者の自立を支えるための適 切な支援の方法や関わり方を考 える。	7	
		3	・これか らの超高 齢社会	・超高齢社会の課題を理解す る。 ・地域社会の一員として高齢者 との関わり方を考えて実践しよ うとする。	3	
6	第6章 食生活をつくる	10	・食生活 の課題に ついて考 える ・食事と 栄養・食 品 ・食品の 選択と安 全 ・生涯の 健康を見 通した食 事計画	・食生活の課題や食事の意義、食 生活を取り巻く環境の変化な どを理解する。 ・栄養素の種類と機能や食品の栄 養的特質や調理性について、科 学的な理解を深める。 ・食品の選び方、保存や加工の方 法、食中毒や食物アレルギー、 安全を確保するための仕組み に関する知識を身につける。 ・「健康によい、栄養バランスのよ い食事」とはどのようなものかを 理解する。	2 5 2 1	・ワークシート (記述の確認) ・授業の取り組み (行動の確認) ・振り返りシート (記述の分析) ・定期考査

	7		7	<ul style="list-style-type: none"> 調理の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> 実習をとおして、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 配膳やマナーに関心を持つ。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 授業の取り組み(行動の確認) 振り返りシート(記述の分析)
		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		<ul style="list-style-type: none"> 巻頭・各章末「ホームプロジェクト」 	<ul style="list-style-type: none"> 生活上の課題を設定し、解決方法を考え計画を立てて実践しようとする。(夏季休業中課題) 	夏季休業中	<ul style="list-style-type: none"> 提出物(記述・作品の確認)
	8		8	<ul style="list-style-type: none"> 食生活の文化と知恵 これからの食生活 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食文化の特徴を確認する。 世界の食文化に関心を持つ 安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。 	4 2 2	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(記述の確認) 授業の取り組み(行動の確認) 発表の様子(行動の確認) 振り返りシート(記述の分析)
	9 10 11	第9章 経済生活を営む	14	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集・比較と意思決定 購入・支払いのルールと方法 消費者の権利と責任 生涯の経済生活を見通す 家計をマネジメントする これからの経済生活 	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 さまざまな契約について理解する。 契約の重要性について理解する。 消費者の権利と責任について理解する。 消費者保護制度について理解する。 消費者市民社会の実現について考えて実践する。 経済的自立の重要性や働き方について理解する。 家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。 家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践する。 	2 2 2 3 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(記述の確認) 授業の取り組み(行動の確認) 振り返りシート(記述の分析) 定期考査
	12 1	第10章 持続可能な生活を営む	14	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を目指して 一人一人の力で社会を動かす これからの生活をデザインする 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。 持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。 自立し、共に生きるための生活設計をし、これからの社会を創造する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(記述の確認) 授業の取り組み(行動の確認) 振り返りシート(記述の分析)
	2	第11章 これからの生活を創造する				4 5	

3	その他	3	・1年間の振り返り	・これまで学んだことを生かし、実生活を豊かにするための工夫を考える	3	・振り返りシート (記述の分析)
---	-----	---	-----------	-----------------------------------	---	---------------------

70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・单元ごとの実習では、作品を製作し提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「家庭総合」は、家庭生活に必要な知識や技術を身につけると共に、暮らしと社会の課題を結びつけて考えます。変化の激しい世界の状況に対応できるよう、共生社会、大量生産・大量消費、持続可能な社会、多様性を認め合う社会など私たちの日常生活とつながる広範な内容が満載です。ぜひ、新しい時代に必要な資質や能力を育ててほしいと思います。